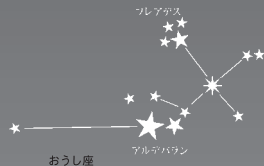


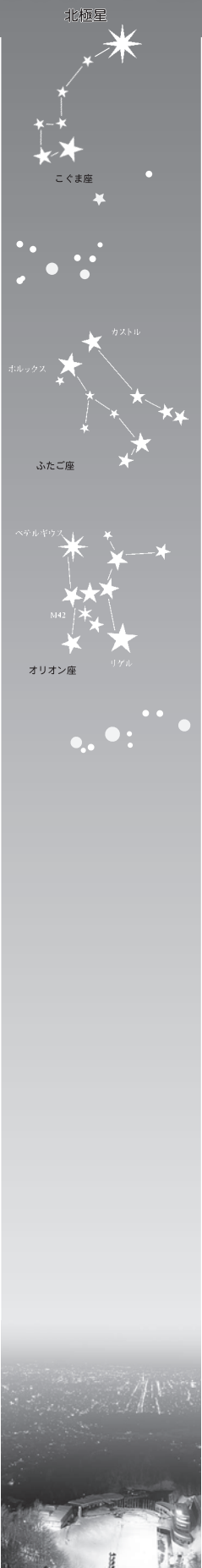
ポラリスを仰ぐ北の大地から



ヘチマと瓢箪

赤平市医師会 会長 **渡部 公祥**

あまり一般的ではないと思いますが、瓢箪が好きです。釧路市立寿小学校3年生時の担任教諭に「ヘチマを育てて、実を持ってきたら、理科の通信簿は5にしてあげる。」と言われ、小学生ながら本気で育てました。しかし、釧路は平均気温が低く、霧の日が多く日照時間が短いため、うまく育ちませんでした。その記憶が影響していたのか、20年ほど前の春先に、札幌のある種苗店でヘチマの苗を見つけ購入しました。単身赴任先の赤平の住宅で、庭に植えてみました。特に手をかけたわけではないのですが、物干し台と2本の竿を、そのまま棚してみると、大きな黄色い雄花・雌花がたくさん咲いて、いくつも大きな実が遂にできあがりました。定職に就かず、ブラブラと遊んでいる輩のことを「ヘチマ野郎」と言うそうですが、まさに風に吹かれてブラブラしている様を見て、ニヤニヤしながら満足していました。その後はユウガオ（かんぴょうの原料）も挑戦し、大成功。直径20cm、長さ60cmもの立派な実がなりました。そしてある時に瓢箪の苗に出合って、現在に至ります。小さな実がたくさんなる千成瓢箪、大きな実の大瓢箪、外国産の珍しい瓢箪などなど、いろいろやってみましたが、一番のお気に入りは大瓢箪です。今までで一番大きく育ったのは高さ70cmにもなりました。瓢箪は、容器として水筒や酒の貯蔵に利用されてきましたが、外国では楽器に使われたり漁具（浮き）に使われたり、中国では幸運を招く縁起の良いものとしてよく見かけるようです。瓢箪好きの私に、娘が中国のお土産として、瓢箪をたくさん買ってきてくれました。日本の神道では、中に神が宿る縁起物とされています。京都清水寺の産寧坂にある瓢箪専門店には2回お邪魔しています。瓢箪の個性的な形・曲線が、なんとも言えず気に入っています。



退職を迎えて

富良野医師会 会長 **小山内裕昭**

今年3月で定年退職を迎え、無事に富良野協会病院を「卒業」しました。思えば30年間、この病院で働き続けてきたけれど、赴任当初はまさかこんなに長くいるとは思ってもみなかった。出勤最終日に病院職員からもらった寄せ書きには「小山内先生お世話しました」と書かれていて、思わず笑ってしまいました。

おっしゃるとおり、周囲の助けがなければ、医師の仕事をここまで続けることはできなかっただろう。ずぼらな私のためにいつも事前準備をしてくれる看護師、パソコンの操作が苦手な私のためにカルテ入力などを手伝ってくれた医療クラーク、レントゲン、薬局、事務など、本当にお世話になりました。院長になってからは医療以外で多忙になってしまった私の代わりに外来を担当してくれる後輩医師。また、仕事以外でも大好きな飲み会や家で開いたBBQには多くの人に来てくれて、みんなで酒を飲み、楽しく過ごせた。本当に感謝しております。

退職後も働いてはいるが、時間ができたときには、妻と一緒にささやかな旅行もしたい。以前に2度ほど行った、積丹半島では海と空の境がわからないほどのきれいな「積丹ブルー」は絶景だった。新型コロナウイルスの感染が拡大しているのでもなか行けなくなってしまったが、これからも妻とともに、時間の許す限り余暇をたのしみたい。ただ、仕事は好きなので、全く仕事をしない人生は考えられない。

現在は、富良野老健を運営し、富良野協会病院の外来を手伝い、市から依頼された山部診療所の診療を手伝っております。

また、富良野医師会長として、在宅医療の推進、救急医療の充実のためにやっていきたいと考えております。

これからは趣味の旅行や日本酒を楽しみつつ、充実した仕事をしていきたいと考えております。